



第3期 士別市スポーツ推進計画

令和8年3月
士別市教育委員会

健康・スポーツ都市宣言

わたくしたち士別市民は、一人ひとりが健康に心をつかい、生涯を通してスポーツに親しみ、健全な心とからだをきたえ、人と大地が躍動するすこやかな「まち」を築くため、ここに「健康・スポーツ都市」を宣言します。

平成17(2005)年10月14日議決



はじめに

士別市では、平成17(2005)年の「健康・スポーツ都市宣言」以来、市民一人ひとりがスポーツを通じて健やかに暮らせるまちづくりを進めてまいりました。

また、平成30(2018)年には「第2期スポーツ推進計画」を策定し、市民スポーツの振興や「合宿の里」づくりに取り組んできたところです。

この間、スポーツをめぐる環境は大きく変化し、国においては、令和4(2022)年に「第3期スポーツ基本計画」が策定され、スポーツの持つ力を活用した社会課題の解決や、持続可能なスポーツ環境の構築が示されており、本計画は、こうした国の計画を反映させ、本市の最上位計画である「士別市まちづくり総合計画」と密接に関連させた今後8年間のスポーツ施策の指針となるものです。

本計画を推進するにあたり、その核となる考え方として、基本理念に『スポーツで輝く、人・まち・未来』を掲げました。

次世代を担う子どもたちのスポーツ環境を整え、健やかな成長を支える取組みを最優先に進めます。あわせて、子どもから高齢者まで、また障がいの有無に関わらず、すべての市民が日々の生活の中でスポーツを楽しみ、いきいきと暮らせる「市民皆スポーツ」の輪を広げてまいります。

こうした活動を活気づける柱として、本市独自の資源を活かした「合宿の聖地共創」を目指します。合宿に訪れるトップアスリートや、オリンピックの方々や、本市の子どもたちが間近に触れ合い、陸上教室などを通じて直接指導を受ける機会をこれまで以上に充実させていきます。本物の姿に触れることで、子どもたちが夢や希望を抱き、「なりたい自分」の具現化に向けたきっかけ作りができるなどの相乗効果を生み出すことが重要であると考えております。

最後に、これらすべての活動を支える確かな土台として、誰もが安全・安心にスポーツを楽しめる環境の維持・整備を計画的に進めてまいります。

本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただいた市民の皆様、並びにスポーツ推進審議会をはじめとする関係団体の皆様に深く感謝申し上げます。今後におきましても、本計画の着実な推進を図ってまいりたいと存じますので、市民の皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和8(2026)年3月

士別市教育委員会 教育長 泉山 浩幸

第1章 計画の策定にあたって

1. 計画策定の趣旨	
(1) 計画策定の目的	1
(2) 計画の位置付け	2
(3) 計画の期間	2
2. イラストで見る士別市のスポーツ	3
3. 第2期計画の成果と課題	
(1) 生涯スポーツの推進	4
(2) 競技スポーツの推進	5
(3) スポーツ合宿の里づくり・スポーツイベントを通じた地域の活性化	6
(4) スポーツ環境の充実	7

第2章 基本理念及び重点施策

1. 基本理念	8
2. 重点施策	8
3. 計画の施策体系	9

第3章 基本施策

重点施策① 世代を通じて育む子どものスポーツ環境整備	10
重点施策② ライフステージに応じた、誰もが親しめるスポーツ環境の充実	14
重点施策③ 士別の資源を活かし、スポーツイベントで拓く地域活性	16
重点施策④ 持続可能なスポーツ環境の整備	19

第4章 計画の推進にあたって

1. 庁内横断的な連携	21
2. 関係団体等との連携	21

第5章 用語解説

別冊資料

1. 士別市民スポーツ意識調査結果（一般）
2. 士別市民スポーツ意識調査結果（子ども）

第1章 計画の策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

(1) 計画策定の目的

本市では、「健康・スポーツ都市宣言」の理念に基づき、スポーツを通じたまちづくりを進めてきました。これまでの成果をさらに発展させるため、令和8(2026)年度から令和15(2033)年度までの8年間を期間とする「第3期土別市スポーツ推進計画」を策定します。

本計画は、国の「第3期スポーツ基本計画」の内容を反映させ、本市の最上位計画である「土別市まちづくり総合計画」と密接に関連させるものです。

この計画の基本理念として

『スポーツで輝く、人・まち・未来』

～人を育み、未来へひらく、生涯スポーツのまち～

を掲げました。

次世代を担う子どもたちのスポーツ環境を整え、健やかな成長を支える取組を推進します。あわせて、子どもから高齢者まで、また障がいの有無に関わらず、すべての市民がスポーツを楽しみ、健康に暮らせる「市民皆スポーツ」の輪を広げていきます。

こうした市民の活動を促進する柱として、本市ならではの資源を活かした「合宿の聖地共創」を今後も目指します。

多くのアスリートが本市を訪れ、多くの市民と間近で触れ合い、スポーツ教室などを通じた交流や直接指導を受ける機会を今後も充実させていきます。

子どもたちにとっては、本物の姿に触れることで夢や希望を抱き、「なりたい自分」を具現化していく。このような更なる相乗効果を生み出すことこそが、本市が合宿招致を通じて到達すべき目標であると考えています。

これらの活動を支える確かな基盤として、誰もが安全で使いやすいスポーツ環境の計画的な維持・整備に努めます。

スポーツの力で「人」を育み、「まち」に活力を生み出し、輝かしい「未来」を切り拓いていくため、市民の皆様とともに歩みを進めてまいります。

本市では、平成30(2018)年3月に「第2期土別市スポーツ推進計画」を策定し、「スポーツで人と地域を健やかに」を基本方向として掲げ、市民一人ひとりがスポーツに親しみ、健康で活力に満ちた生活を送ることができるよう、生涯スポーツの推進や競技スポーツの振興、スポーツ合宿の里づくりなど、様々な施策を展開してきました。

第2期計画の8年間で、「健康・スポーツ都市宣言」の理念は広く市民に浸透し、週1回以上のスポーツ実施率は32.6%から37.6%へと向上しました。また、合宿受入は道内トップクラスの実績を維持し、陸上競技場やジャンプ台などの計画的な施設改修により、スポーツ環境の充実を図りました。

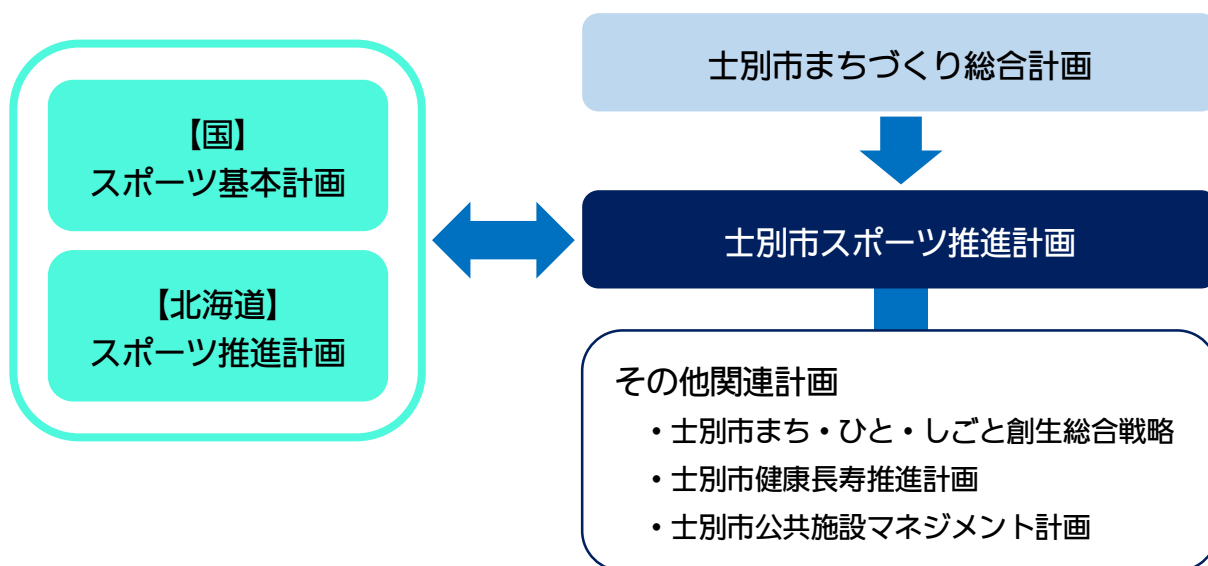
一方で、人口減少、市民の価値観の多様化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツを取り巻く環境は大きく変化しています。

国においては、令和4(2022)年3月に「第3期スポーツ基本計画」が策定され、スポーツを「つくる／はぐくむ」、スポーツで「あつまり、ともに、つながり」、スポーツに「誰もがアクセス」できるといった新たな3つの視点が示されるとともに、中学校部活動の地域連携・地域展開の推進やスポーツDXの推進など、新たな課題への対応が求められています。

本計画は、第2期計画で進めてきた生涯スポーツの推進、競技スポーツの振興、スポーツ合宿の誘致・交流促進、施設環境の整備などの成果と課題を踏まえ、今後の社会情勢の変化や地域の実情に対応した新たなスポーツ施策の方向性を示すことを目的とするものです。

(2) 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条第1項に基づく「地方スポーツ推進計画」として位置付けられるものであり、国の「第3期スポーツ基本計画」及び北海道の「第3期北海道スポーツ推進計画」を参考にするとともに、本市の最上位計画である「第2次士別市まちづくり総合計画」をはじめ、「健康長寿推進計画」など、関連する各種計画との整合を図り、総合的な視点からスポーツ施策を展開していくための指針となるものです。



(3) 計画の期間

本計画の期間は、令和8(2026)年度から令和15(2033)年度までの8年間とします。

この期間の中間年となる令和11(2029)年度には進捗状況や社会情勢の変化を踏まえて検証を行い、必要に応じて計画の内容や取組の重点化を図りながら、スポーツ施策の推進につなげていくものとします。

2. イラストで見る士別市のスポーツ

子どものスポーツ好きの割合

77.5%



- 小学5年生:80.9%、中学2年生:75.2%、高校2年生:76.8%

健康づくりを目的にスポーツをしている成人の割合

39.8%



- 10・20代:41.9%、30代:34.5%、40代:39.8%、50代:37.3%、60代:41.6%、70代以上:48.7%

子どもの週1回以上のスポーツ実施率

64.2%



- 小学5年生:66.3%、中学2年生:66.1%、高校2年生:61.1%

総合体育館トレーニング室の1日の個人利用の人数

59人



- 総合体育館トレーニング室の年間利用者数:19,936人

バルシューレクラブ募集に対する子どもの参加率

70.0%



- 募集人員 120名 (幼児年中~小学6年生)

屋内施設の人口1人あたりの年間利用回数

6.4回



- 総合体育館:3.6人、スポーツ交流館:0.7人、農業者トレーニングセンター:0.9人、学校開放:0.6人、勤労者センター体育室:0.6人

士別市からトップアスリートが育つことを期待する成人の割合

75.3%



スポーツ活動をサポート(指導・支える)する活動に参加する成人の割合

9.2%



- 10・20代:5.0%、30代:4.9%、40代:13.0%、50代:13.7%、60代:6.6%、70代以上:12.5%

3. 第2期計画の成果と課題

(1) 生涯スポーツの推進

基本方向

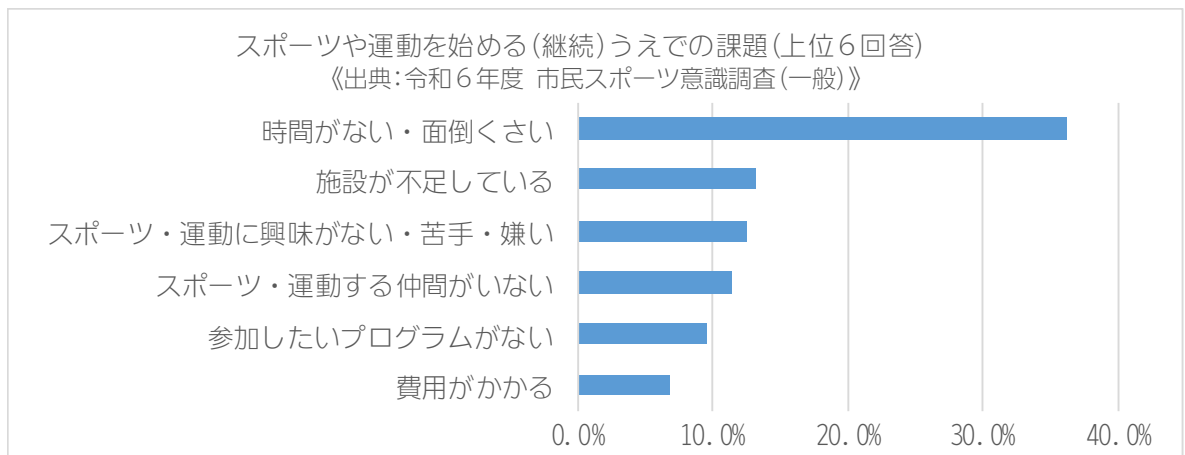
国の「第2期スポーツ基本計画」が掲げるスポーツの価値や知識を普及するとともに、全ての市民がそれぞれのライフステージに応じて幅広い意味でスポーツに親しむことができる環境づくりに努め、「市民皆スポーツ」を推進します。

成果

- 「健康・スポーツ都市宣言」の理念が市民に浸透し、「市民皆スポーツ」の取組への肯定的な回答が94%に達しました。
- 週1回以上のスポーツ実施率は32.6%から37.6%へ5.0ポイント上昇し、市民の健康意識の高まりが確認されました。
- 総合型地域スポーツクラブは、人口減少下でも地域の実情に応じた教室やイベントを継続し、住民の健康づくりや交流機会の維持に貢献しました。
- 全国体力・運動能力調査では、8年間で中学生が全国平均を上回る年が多く、学校体育を中心とした体力向上の取組が成果を上げました。
- 土別市スポーツ協会による健康・体力づくりサポート事業や福祉との連携事業の実施など、行政と関係団体が連携を深めてスポーツ振興に取り組んできた成果が表れています。

課題

- ▼ スポーツ実施率は、5.0ポイント上昇したものの全国平均52.5%を下回っており、さらなる向上が求められます。
- ▼ スポーツへの関心は「競技志向」「健康志向」「交流志向」と多様化しており、個人の生活や目的に合わせて気軽に運動できる環境の充実が必要です。
- ▼ 「仲間がいない」「プログラムがない」との意見もあり、スポーツの「楽しさ」や「つながり」を感じられる継続的な参加の仕組みづくりが課題です。
- ▼ デジタル技術を活用した新しい形の活動への関心も一部で見られ、時代の変化として把握しつつ、スポーツとの関わりを整理していくことが必要です。
- ▼ 総合型地域スポーツクラブは、会員確保や担い手の維持が困難になることが想定され、地域の実情に応じた活動内容の再確認や持続的な運営体制の検討が必要です。
- ▼ 医療・福祉・スポーツの分野がより密接に連携できる仕組みの構築も重要です。



(2) 競技スポーツの推進

基本方向

スポーツに関わる専門知識の習得や資質の向上など、指導者の確保・養成を図るとともに、少年団や学校部活動、競技団体による選手育成活動を推進します。

成果

- 中学校部活動数の減少が続く中でも、拠点校方式や部活動指導員の配置により活動機会を確保してきました。
- 士別市スポーツ協会による競技力アップトータルサポート事業や、バルシューレ指導者養成講習会のほか、各競技団体が指導者養成を行い幼少期からの運動指導に携わる人材育成が進みました。
- トップアスリートとの交流では、実業団陸上教室やオリンピック教室を継続的に実施し、子どもたちに夢や目標を持つきっかけを提供できました。
- 交通費助成や習い事応援タクシーの実証実験により、子どもたちの活動機会の確保と保護者負担の軽減を図りました。
- 選手の表彰制度や全国大会出場者への奨励も継続して実施しました。

課題

- ▼ 少子化により中学校部活動数は減少しており、専門的な指導体制の構築が課題です。
- ▼ 中学校教員の71.4%が、現在担当の部活動の競技経験がないと回答しており、地域展開を契機とした指導体制の構築が急務です。
- ▼ 市民スポーツ意識調査で運動が「少し嫌い」「嫌い」と答えた子どもが12%前後おり、特に女子は苦手意識が強い傾向があり、子どもが多様な種目に触れる機会の充実が必要です。
- ▼ 中学校部活動の地域展開を契機にスポーツ協会・競技団体・保護者・学校・行政が一体となった継続的な育成支援と持続可能な体制づくりが課題です。
- ▼ 市民スポーツ意識調査で体の痛みを感じている子どもが7割にのぼることから、成長に寄り添って指導できる知識を持つ人材の育成が重要です。

子どもの体の痛みと運動回数の相関表《出典:令和6年度 市民スポーツ意識調査(子ども)》

回答項目		どのくらいスポーツや運動をしていますか？				
		ほとんど毎日	週3～4回	週1～2回	月1～2回	年に数回
スポーツや運動をして、体のどこかが痛むことはありますか。	首	2	1	1		
	肩	9	4	8	1	2
	肘	5	3			
	股関節	2	2	1		
	膝	18	9	3	3	1
	足首	13	7	4		1
	腰	19	7	4	1	
	その他	6	4	5		2
痛むところはない	18	14	19	4	4	

(3) スポーツ合宿の里づくり・スポーツイベントを通じた地域の活性化

基本方向

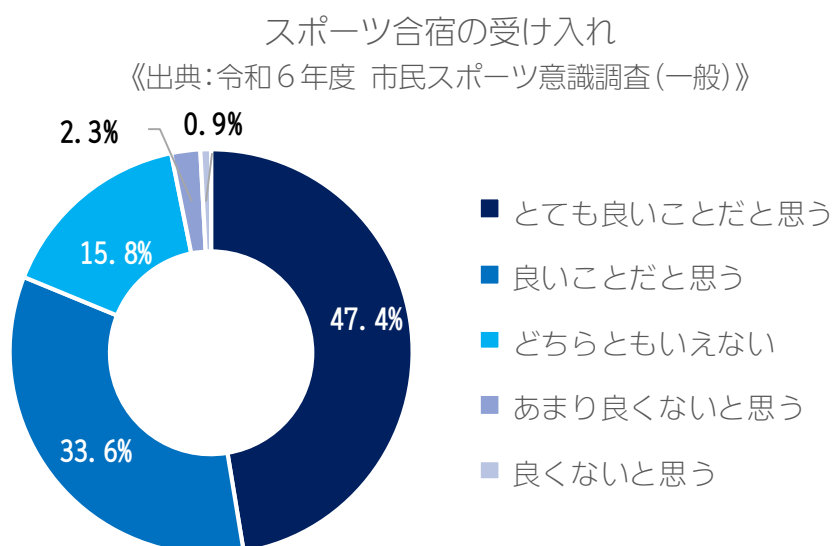
スポーツ合宿の里づくりをさらに前進させ、スポーツ合宿の聖地創造をめざすとともに、スポーツイベントの充実や招致など、スポーツツーリズムによる地域の活性化を図ります。

成果

- コロナ禍後は合宿受入が回復し、令和4～6年度の3年連続で北海道内2位の受入実績を維持しましたが、目標としていた24,800人には達しませんでした。
- ドイツや台湾のナショナルチーム等の海外合宿を受け入れ、国際的な実績を積み重ねました。
- 市民スポーツ意識調査では、合宿受入を良いことと回答した市民が81.0%に達し、「拡大または維持」を望む声が67.8%と高い評価を得ました。
- 実業団陸上教室やJoyRun交流会など、合宿チームと市民・児童との交流事業を継続して実施しました。
- 全国高校総体ウエイトリフティング競技を成功裡に開催しました。

課題

- ▼ 合宿全体の約75%を陸上長距離とスキーが占めており、春・秋の閑散期への他競技種目の招致拡大が必要です。
- ▼ 少子化により高校生以下の合宿人口の減少が見込まれる中、効果的な招致活動が求められます。
- ▼ 宿泊施設の高齢化による事業継承や施設改修の課題があり、持続可能な合宿体制の構築が必要です。
- ▼ 「情報をもっと発信してほしい」との回答が26.4%あり、取組の見える化と周知の充実が求められています。
- ▼ スポーツイベントでは、魅力発信と賑わいへの期待が高く、参加者や市民が楽しめる内容の充実が求められます。



(4) スポーツ環境の充実

基本方向

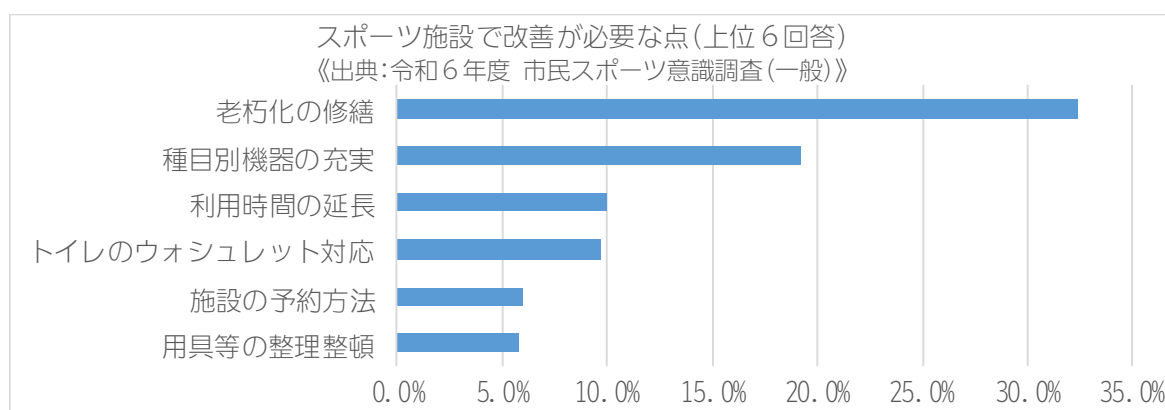
スポーツ合宿やスポーツイベント、競技スポーツに加え、全ての市民がスポーツに親しむことができるハード・ソフト両面での環境整備を進めます。

成果

- 朝日三望台シャンツェ、朝日農業者トレーニングセンター、陸上競技場の全面改修を計画的に実施し、安全性と競技性が向上しました。
- 特にジャンプ台とトレーニングセンターの改修は合宿利用者から高い評価を得て、合宿地としての信頼性が一層高まりました。
- 総合体育館のトレーニングルームでは、利用者ニーズを踏まえた機器の更新・拡充を随時行い、市民の評価も高まっています。
- Wi-Fi環境を総合体育館、農業者トレーニングセンター、日向スキー場の3施設に導入し利便性の向上につながりました。
- ホクレン・ディスタンスチャレンジのYouTube配信など情報発信の充実を図りました。
- 日本ウエイトリフティング協会や日本陸上競技連盟との連携を継続し、大会招致につながっています。
- スポーツイベントでは、多くのボランティアに支えられており、特に土別ハーフマラソン大会では、中学生から高齢者まで幅広い世代がボランティアに参加しています。

課題

- ▼ 総合体育館は建築から50年を超え、耐震性や安全性の確保を前提とした改築や大規模改修の検討が必要な段階にあります。
- ▼ 市民スポーツ意識調査では、老朽化施設の修繕(32.4%)や種目別機器の充実(19.2%)、利用時間の拡大(10.0%)を求める声が多く、安全性の確保と利用環境の改善の両立が求められます。
- ▼ 特に冬期間の屋内活動場所が不足しており、「場」の確保が大きな課題です。
- ▼ 人口減少下でボランティア人材の確保・育成が重要となり、関心を持つ市民が参加しやすい仕組みづくりが必要です。
- ▼ 企業版ふるさと納税やネーミングライツの活用など、財源確保の観点からの検討も必要です。
- ▼ 中学校部活動の地域展開に向けた具体的な仕組みづくりと、持続的な体制構築が求められています。



第2章 基本理念及び重点施策

1. 基本理念

スポーツで輝く、人・まち・未来

～人を育み、未来へひらく、生涯スポーツのまち～

人 = 市民一人ひとりの心身の健康

まち = 豊かな生活と地域の活性化

未来 = 生涯にわたる継続性と次世代育成

2. 重点施策

基本理念の柱	人を育み（指導者・次世代育成）
施策テーマ	・世代を通じて育む子どものスポーツ環境整備
解決・強化する課題	・指導者、担い手の確保 ・部活動の円滑な地域展開
基本理念の柱	未来へひらく（機会拡大・環境整備）
施策テーマ	・土別の資源を活かし、スポーツイベントで拓く地域活性 ・持続可能なスポーツ環境の整備
解決・強化する課題	・スポーツ機会の多様性の創出 ・合宿誘致の波及効果の拡大 ・施設老朽化への対応
基本理念の柱	生涯スポーツのまち（市民皆スポーツ）
施策テーマ	・ライフステージに応じた、誰もが親しめるスポーツ環境の充実
解決・強化する課題	・スポーツ実施率の向上 ・運動未実施者へのアプローチの構築

3. 計画の施策体系

基本理念	重点施策	基本施策
スポーツで輝く、人・まち・未来	重点施策① 世代を通じて育む子どものスポーツ環境整備	(1) 幼少期からの運動習慣の育成
		(2) 学校体育の充実と地域スポーツ活動との連携
		(3) 学校・地域・競技団体が連携した指導者の育成・確保と指導体制の構築
		(4) 競技力向上に向けた選手育成の推進
		(5) トップアスリートとの交流による夢の創出
		(6) 子どもたちのスポーツ活動を支える環境整備
		(7) 中学校部活動の段階的な地域展開
	重点施策② ライフステージに応じた、誰もが親しめるスポーツ環境の充実	(1) 「健康・スポーツ都市宣言」による「市民皆スポーツ」の浸透と推進
		(2) 多様なニーズに応じたスポーツ機会の創出
		(3) スポーツと医療・福祉の連携
		(4) スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブの持続的な活動推進
	重点施策③ 士別の資源を活かし、スポーツイベントで拓く地域活性	(1) スポーツイベントの魅力向上と地域活性化
		(2) スポーツを「ささえる」人材の育成と活躍機会の創出
		(3) 合宿の聖地共創を目指した戦略的な合宿招致活動の展開
		(4) 合宿の受け入れと市民交流の促進
		(5) 中央競技団体等との連携強化
重点施策④ 持続可能なスポーツ環境の整備	(1) 計画的な施設整備と利用環境の向上	
	(2) 多様な利用者ニーズに応じた利用方法の充実	
	(3) 民間活力を活用した施設運営	
	(4) 施設の最適化と有効活用	

第3章 基本施策

重点施策① 世代を通じて育む子どものスポーツ環境整備

子どもたちが生涯にわたってスポーツに親しみ、心身ともに健やかに成長できるよう、幼児から中学生まで一貫した考えのもと、市民・地域・学校・行政が連携してスポーツ環境づくりを進めます。多様な運動・スポーツに触れる機会の充実と、成長段階に応じた適切な指導体制の整備により、すべての子どもが運動の楽しさを実感できる環境を目指します。

施策指標：子どもが、学校の授業以外で、スポーツや運動をする割合

	現状値 (2025年)	目標値 (2032年)
 小学5年生	74.2%	80.0%
中学2年生	69.7%	75.0%
高校2年生	68.4%	75.0%

《出典：市民スポーツ意識調査》

(1) 幼少期からの運動習慣の育成

幼少期の運動経験は、その後の生涯にわたる運動習慣の形成に大きく影響します。遊びを通じて体を動かす楽しさを実感し、多様な運動に触れることで、子どもたちの健やかな成長と将来のスポーツ活動の基盤を築きます。土別市スポーツ協会が実施するバルシューレなど、幼少期から楽しみながら学べるプログラムの普及や親子で参加できるイベント等を通じて、すべての子どもが運動を好きになる環境づくりを進めます。

主な取組

- ①バルシューレなど、楽しみながら様々な運動要素を経験できるプログラムの普及を図り、特定の種目に偏らない多様な身体活動（マルチスポーツ）の機会を提供します。
- ②親子で参加できる運動イベントを開催し、家族ぐるみでスポーツに親しむ機会の提供に取組みます。
- ③保育・幼児教育施設と連携し、日常的に体を動かす遊びを取り入れた活動を推進します。

【バルシューレとは】

バルシューレは「ボール(Ball)の学校(Schule)」という意味のドイツで開発された運動プログラムです。

特定のスポーツ技術ではなく、すべてのボールゲームに共通する基礎能力を、遊びを通じて育てます。

取組の様子はこちら⇒



(2) 学校体育の充実と地域スポーツ活動との連携

学校体育は、すべての子どもが運動に触れる貴重な機会です。成長期の身体特性を理解した適切な指導により、子どもたちの健全な発達を支えるとともに、運動の楽しさや協力する喜びを実感できる授業づくりを進めます。

また、地域のスポーツクラブや競技団体が連携し、学校外での様々なスポーツを体験できる機会を提供します。学校と地域の役割分担を図り、子どもたちが多様な活動に参加できる環境を整えます。

主な取組

- ①学校体育において、「できる喜び」「協力する楽しさ」を重視した授業内容の充実を図ります。
- ②全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を活用し、児童生徒の体力向上に向けた取組を継続します。
- ③学校体育の取組に加え、地域のスポーツクラブ・競技団体と連携し、地域で多様な種目を体験できる機会を創出します。
- ④運動が苦手な子どもも「楽しい」と感じられる、レクリエーション性の高いスポーツ活動を推進します。

(3) 学校・地域・競技団体が連携した指導者の育成・確保と指導体制の構築

子どもたちの継続的な成長を支えるには、専門的な知識と技能を持つ指導者の確保が不可欠です。特に、幼児から中学生の期間においては、特定の種目に偏らず多様な運動に触れる「マルチスポーツ」の考え方が重要であり、成長段階に応じた適切な指導ができる人材の育成が求められます。学校・地域・競技団体が一体となり、指導者の発掘・育成を進めます。また、指導者が安心して活動できる環境を整備し、子どもたちに質の高い指導を提供できる持続可能な体制を目指します。

主な取組

- ①スポーツ協会や競技団体と連携し、バルシューレ指導者養成講習会など各種指導者研修の機会を提供します。
- ②多様な種目に取り組む「マルチスポーツ」の考えを普及し、子どもたちが様々な運動に触れる機会を創出します。
- ③成長期の身体特性や適切なトレーニング方法を学べる研修会を開催し、スポーツ障害の予防につながる指導者の育成を進めます。
- ④部活動指導員の配置を拡充し、学校と地域が役割分担しながら協働する指導体制を段階的に構築します。
- ⑤指導者が安心して活動できる環境整備の検討を進めます。

(4) 競技力向上に向けた選手育成の推進

チャンピオンスポーツを目指す選手を支えるため、スポーツ協会を中心に、栄養、メンタル、フィジカルなど専門的な知識を学ぶ機会を提供し、選手本人だけでなく、チームや保護者も含めた総合的な支援体制を構築します。科学的なアプローチと継続的なサポートにより、競技力の向上と選手の可能性を最大限に引き出す環境を整えます。

主な取組

- ①士別市スポーツ協会のジュニアスポーツアカデミーなどを通じて、栄養、メンタル、フィジカルなど専門的な知識の習得を支援します。
- ②士別市スポーツ協会の競技力アップトータルサポート事業などを通じて、指導者セミナーや体組成計を活用した測定など、科学的なアプローチによる競技力向上を支援します。
- ③選手本人、チーム、保護者が一体となって競技力向上に取り組める環境を整備します。

(5) トップアスリートとの交流による夢の創出

世界や全国で活躍するトップアスリートとの交流は、子どもたちに夢や目標を持つきっかけを与え、スポーツへの関心を高めます。これまで継続してきた実業団陸上教室やオリンピック教室などの取組を発展させ、子どもたちが夢や憧れを抱き、自らの可能性に挑戦する意欲を育む機会を創出します。

主な取組

- ①実業団陸上教室やオリンピック教室を学校授業の中で継続的に開催し、トップアスリートとの交流機会を提供します。
- ②合宿に訪れるチームと地域のスポーツクラブ等との交流の場を創出します。
- ③海外ナショナルチームの受入時には、学校と地域の双方で世界レベルの技術や姿勢に触れる機会を創出します。

(6) 子どもたちのスポーツ活動を支える環境整備

子どもたちが継続してスポーツ活動に取り組むためには、移動手段の確保などスポーツに打ち込める環境整備が重要です。これまで進めてきた交通費助成の取組を継続するとともに、地域の実情に応じた支援のあり方を検討し、子どもたちが安心して活動できる環境を整えます。

主な取組

- ①全国大会等への出場者に対する奨励金制度を継続し、子どもたちの挑戦を支援します。
- ②表彰制度を通じて子どもたちの努力や成果を称え、達成感と誇りを育みます。
- ③大会等参加の交通費助成を継続し、保護者の負担軽減を進めます。

- ④保護者の送迎負担と移動手段の確保に向けた支援のあり方を検討します。
- ⑤活動場所や用具の確保など、子どもたちが安心して活動できる基盤整備を進めます。

(7) 中学校部活動の段階的な地域展開

少子化や指導者不足といった課題に対応し、子どもたちにとってより良いスポーツ環境を提供するため、部活動の段階的な地域展開を進めます。スポーツ協会、競技団体、学校、保護者、行政が一体となり、地域の実情に応じた持続可能な運営体制を目指すとともに、地域全体で子どもたちの成長を支える新たな仕組みづくりに取り組みます。

主な取組

- ①「士別市児童生徒スポーツ・文化活動地域展開検討協議会」で、部活動の地域展開に向けた具体的な運営方法の検討を進めます。
- ②これまでの地域連携の取組（拠点校方式や部活動指導員の配置など）を生かしながら、段階的な地域展開を進めます。
- ③平日の活動についても将来的な展開を見据え、休日の部活動から段階的に地域展開を進めます。
- ④部活動の地域展開の受け皿となる体制づくりを支援します。

重点施策② ライフステージに応じた、誰もが親しめるスポーツ環境の充実

市民一人ひとりが、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、それぞれのライフステージや目的に応じてスポーツに親しむことができる環境を整備します。スポーツ実施率の向上を図るとともに、多様化するニーズに対応し、誰もが「楽しさ」や「つながり」を感じられる生涯スポーツ社会を実現します。

施策指標：成人の週1回以上のスポーツ実施率



現状値 (2025年)

37.6%

目標値 (2032年)

45.0%

《出典：市民スポーツ意識調査》

(1) 「健康・スポーツ都市宣言」による「市民皆スポーツ」の浸透と推進

「健康・スポーツ都市宣言」の理念のもと、市民一人ひとりがスポーツに親しむ「市民皆スポーツ」の取組を継続して推進します。スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な関わり方を通じて、市民がスポーツの価値を実感し、生活の中にスポーツを取り入れる機運を高めます。

主な取組

- ①スポーツへの関心を高めるため、「健康・スポーツ都市宣言」の理念を市民に継続的に発信します。
- ②多くの市民が参加しやすい内容の工夫により、市民のスポーツ参加意識を高めるため、スポーツウィークをはじめとした全市的な取組を継続します。
- ③スポーツ推進委員による地域でのスポーツ普及活動を支援し、身近なスポーツ機会を創出します。
- ④市民スポーツ意識調査を中間年(令和11(2029)年度)に実施し、ニーズや課題を把握しながら施策の改善を図ります。

(2) 多様なニーズに応じたスポーツ機会の創出

市民のスポーツへの関心は「競技志向」「健康志向」「交流志向」と多様化しています。個人の生活スタイルや目的に応じて気軽に参加できるプログラムの充実を図り、特に運動未実施者や関心の薄い層に対しても、スポーツの楽しさやつながりを感じられる機会を提供します。

主な取組

- ①士別市スポーツ協会の健康・体力づくりサポート事業等をとおして、市民の健康づくりを支援します。
- ②年齢や体力に応じた多様なプログラムの提供に向けた環境づくりを検討します。
- ③初心者向けに施設利用方法やトレーニング機器の使い方を学べる機会を提供し、安心して利用できる環境を整えます。
- ④日常生活の中で気軽に取り組める運動方法や、短時間で効果的な運動プログラムなどの運動に関する情報提供を充実させます。
- ⑤障がい者スポーツの体験会等を開催し、障がいの有無にかかわらず一緒に楽しめる環境を整えます。
- ⑥障がいの有無や年齢、体力レベルに関わらず、誰もが一緒にスポーツを楽しめるよう、ルールや用具を工夫したアダプテッドスポーツの取組を推進します。
- ⑦デジタル技術を活用した新しい形のスポーツ活動について情報を集め、時代に応じた取組を検討します。

(3) スポーツと医療・保健・福祉の連携

高齢化が進む中、スポーツを通じた健康増進と介護予防の取組がますます重要となります。医療・保健・福祉・スポーツの各分野が連携し、市民の健康寿命の延伸に向けた取組を推進します。これまでの保健・福祉との連携事業を発展させ、より効果的な健康づくりの仕組みの構築を目指します。

主な取組

- ①士別市スポーツ協会や保健福祉部門と連携し、介護予防や健康増進につながるプログラムの創出を図ります。
- ②成長期の子どもたちのスポーツ障害予防に向けて、医療機関と連携した相談体制や適切な運動指導に関する情報提供を推進します。
- ③健康データの活用など、効果的な健康増進施策の展開を検討します。

(4) スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ等の持続的な活動推進

士別市・朝日町両スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブは、地域のスポーツ振興を担っています。人口減少下においても、地域の実情に応じた活動を継続できるよう支援を進めます。

主な取組

- ①スポーツ協会への支援を継続し、市民のスポーツ活動の推進や競技団体の活動基盤を強化します。
- ②総合型地域スポーツクラブへの支援を継続し、地域の実情に応じた教室やイベントの開催を推進し、地域コミュニティを促進します。

重点施策③ 土別の資源を活かし、スポーツイベントで拓く地域活性

土別市の優れたスポーツ環境と、これまで培ってきた合宿受入のノウハウを最大限に活かし、スポーツを通じた地域活性化を推進します。「合宿の里土別」の合宿環境をさらに高め、より多くの競技種目・チームの受け入れを目指します。

また、市民がスポーツイベントを通じて交流し、まちの賑わいと誇りを創出するとともに、土別の魅力を発信します。

施策指標：スポーツ合宿・大会の延べ人数



現状値 (2025年)

18,827人

目標値 (2032年)

25,000人

《出典:市合宿の里・スポーツ推進課調べ》

(1) スポーツイベントの魅力向上と地域活性化

土別ハーフマラソン大会やホクレン・ディスタンスチャレンジなど、市民に親しまれているスポーツイベントの魅力さをさらに高めます。また、オリンピックやパラリンピアンとの交流機会を通じて、多様なスポーツの魅力に触れる機会を創出します。イベントによるまちの賑わいを創出するとともに、土別の魅力を発信し、地域への誇りと愛着を育みます。

主な取組

- ①土別ハーフマラソン大会やホクレン・ディスタンスチャレンジなどの内容充実と魅力向上を図ります。
- ②オリパラフェスティバルを開催し、オリンピックやパラリンピアンとの交流を通じて、市民が多様なスポーツに触れる機会を提供します。
- ③参加者が楽しめる工夫や地域の食と連携するなど、スポーツイベントを通じた地域の魅力発信を推進します。
- ④イベント情報の発信を強化し、市内外からの参加者増加につなげます。

(2) スポーツを「ささえる」人材の育成と活躍機会の創出

スポーツイベントを支えるボランティアは、地域のスポーツ振興に欠かせない存在です。これまで土別ハーフマラソン大会などのイベントにおいて多くの市民に支えていただいた取組を継続するとともに、幅広い世代が参加しやすい仕組みづくりを進め、スポーツを「ささえる」人材の育成と参加機会の充実を図ります。

主な取組

- ①スポーツイベントにおけるボランティア活動の機会を継続的に提供します。
- ②ボランティアに関心のある市民が参加しやすい仕組みづくりを推進します。
- ③学校と連携し、中高生がボランティア活動を体験する環境を整え、若い世代の社会参画意識を育てます。
- ④ボランティア活動の意義や魅力を発信し、参加者の拡大を図ります。

(3) 合宿の聖地共創を目指した戦略的な合宿招致活動の展開

合宿受入を発展させるため、戦略的な合宿招致活動を展開します。陸上長距離とスキーに加え、春・秋の閑散期における他競技種目の招致を強化し、年間を通じた合宿受入を目指します。国内外のチームに選ばれる「合宿の聖地」として、土別の魅力を発信します。

主な取組

- ①実業団チーム、大学チームへの招致活動を継続するとともに、合宿ニーズを把握し受入環境を整えます。
- ②春・秋の閑散期における他競技種目の招致を強化するとともに、年間を通じた安定的な受入を目指し、社会人チームや愛好者グループなどターゲットの多様化を図ります。
- ③宿泊施設や交通事業者など関係機関と連携し、受入体制の維持・強化を推進します。
- ④合宿チームからのフィードバックを収集・分析し、継続的な受入環境の改善につなげます。

(4) 合宿の受け入れと市民交流の促進

合宿チームと市民との交流は、地域に活気をもたらし、市民のスポーツへの関心を高める貴重な機会です。市民が合宿選手とふれあう機会の創出を継続し、市民が合宿の波及効果を実感できる機会を推進します。また、合宿に関する情報発信を強化し、取組の見える化を図ります。

主な取組

- ①陸上教室やJoyRun交流会など、合宿チームと市民との交流事業を継続するとともに、他競技種目でも交流機会の拡大を図ります。
- ②合宿選手の休養日等に、土別の魅力を楽しめる情報を提供し、地域への愛着を深めてもらう取組を進めます。
- ③多様な媒体を活用し、合宿情報や受入効果などを市民に発信し、市民理解の促進を図ります。

(5) 中央競技団体等との連携強化

日本陸上競技連盟や日本ウエイトリフティング協会など、中央競技団体との連携を継続・強化し、大会受入や合宿誘致につなげます。

主な取組

- ①日本陸上競技連盟や日本ウエイトリフティング協会など、中央競技団体との連携を継続します。
- ②中央競技団体が主催する強化合宿の受入を積極的に進めます。
- ③競技団体のニーズを把握し、施設環境の充実や受入体制の改善を図ります。

重点施策④ 持続可能なスポーツ環境の整備

市民が安全・快適にスポーツ活動を行うことができるよう、計画的な施設整備と維持管理を進めます。老朽化が進む施設への対応と、多様化する利用者ニーズへの対応を両立させながら、次世代につながる持続可能なスポーツ環境を整備します。

施策指標：スポーツ施設の満足している割合（●非常に満足 ●おおむね満足）



現状値 (2025年)

37.6%

目標値 (2032年)

45.0%

《出典：市民スポーツ意識調査》

(1) 計画的な施設整備と利用環境の向上

スポーツ施設の計画的な整備と維持管理を進め、市民が安全・快適に利用できる環境を確保します。バリアフリー化やICT環境の充実など、すべての市民が利用しやすい環境を整えるとともに、合宿地としての練習環境の維持・向上を図ります。

主な取組

- ①総合体育館の改築または大規模改修に向けた検討を進め、安全性の確保を最優先に取り組みます。
- ②各スポーツ施設の維持に向けては、予防保全の考え方を取り入れた計画的な修繕を実施し、利用者の安全確保と利用環境の向上を図ります。
- ③Wi-Fi環境など、利便性向上につながる設備の充実を推進します。

(2) 多様な利用者ニーズに応じた利用方法の充実

市民の多様なライフスタイルやスポーツニーズに対応するため、利用者の声を反映しながら、より使いやすい施設運営を目指します。

主な取組

- ①施設予約システムの円滑な運用を推進し、利用者が使いやすいシステムの定着を図ります。
- ②市民スポーツ意識調査で要望のあった利用時間の拡大について検討します。
- ③施設の利用状況や市民ニーズを踏まえた機器の更新・充実を図ります。
- ④利用者アンケート、意見箱などで利用者の声を把握し、サービスの改善につなげます。

(3) 民間活力を活用した施設運営

持続可能な施設運営に向けて、指定管理者制度の導入を進めるとともに、企業版ふるさと納税やネーミングライツなど、多様な民間活力の活用を検討します。財源の確保と施設の魅力向上を両立させながら、次世代につながるスポーツ環境の整備を目指します。

主な取組

- ①指定管理者制度の導入に向けて、施設の特性や地域の実情を踏まえた検討を行い、円滑な移行を図ります。
- ②フィットネスプログラムや専門的な運動指導など、民間と公共が連携した新たな形のサービス提供について検討を進めます。
- ③企業版ふるさと納税の活用を検討し、施設整備の財源確保を図ります。
- ④ネーミングライツの導入可能性を検討し、民間企業との連携を推進します。

(4) 施設の最適化と有効活用

人口減少や利用状況の変化を踏まえ、施設の適正配置と有効活用を検討します。限られた資源を最大限に活用し、市民にとって利用しやすく、持続可能な施設環境を整備します。

主な取組

- ①人口減少を踏まえ、施設の最適化に向けた中長期的な視点で検討を進めます。
- ②学校体育施設の地域開放を推進し、市民の活動場所を確保します。
- ③中学校部活動の地域展開に対応した施設利用のあり方を検討します。

第4章 計画の推進にあたって

1. 庁内横断的な連携

本計画の推進にあたっては、スポーツ担当部局だけでなく、教育、保健福祉、地域振興などの関連する部署が横断的に連携し、総合的な施策展開を図ります。定期的な情報共有と連携体制の構築により、効果的なスポーツ施策の推進を目指します。

2. 関係団体等との連携

士別市・朝日町両スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、競技団体、学校、医療・福祉機関、民間事業者など、多様な主体との連携・協働により、本計画を推進します。それぞれの強みを活かしながら、市民のスポーツ活動を支える体制を構築します。

また、計画の進捗状況については、市民スポーツ意識調査や関係団体からの意見聴取を通じて定期的に検証し、必要に応じて取組の見直しや重点化を図ります。

第5章 用語解説

【あ行】 ●アダプデットスポーツ

障がいの有無や年齢、体力に関わらず誰もが参加、楽しめるように、ルールや用具を工夫したスポーツです。

●オリパラフェスティバル

オリンピック・パラリンピアンとともに、スポーツの楽しさや面白さなどの魅力を体験できるイベントです。士別市独自のイベントとして、令和5(2023)年度から実施しています。

●オリンピック教室

中学校の授業にオリンピック出場経験者（オリンピック）を講師に招き、トップアスリートとの交流を通じてスポーツの楽しさを学び、夢や目標に向かって努力する大切さを伝える取り組みです。

【か行】 ●健康・スポーツ都市宣言

市民の健康づくりとスポーツ振興を通じて、市民が生涯にわたり健やかに暮らせるまちづくりを目指す姿勢を表明したものです。

【さ行】 ●実業団陸上教室

小学校の授業に合宿中の実業団陸上競技部の指導者と選手を講師に招き、運動や交流を通して、スポーツへの親しみを育み、合宿の里を知ってもらう取り組みです。

●市民皆スポーツ

すべての市民が、生涯を通じてスポーツを親しむことを推進する理念です。

●JOYRUN交流会

大人や子どもを対象に合宿中の実業団陸上競技部の指導者と選手を講師に招き、走ることを通して、市民と交流するイベントです。

●スポーツウィーク

1週間程度にわたって、様々なスポーツ体験やイベントを開催し、市民のスポーツへの関心を高め、スポーツや運動のきっかけづくりを目的とする土別市独自のイベントです。

●スポーツ障害

スポーツ活動の繰り返しの動作によって生じる身体の障害です。

●総合型地域スポーツクラブ

地域住民が主体となって運営する多世代・多種目・多志向型のスポーツクラブで、地域コミュニティの維持にも寄与します。

【は行】 ●バルシューレ

バルシューレは「ボール(Ball)の学校(Schule)」という意味のドイツで開発された運動プログラムです。特定のスポーツ技術ではなく、すべてのボールゲームに共通する基礎能力を、遊びを通じて育てます。

●ホクレン・ディスタンスチャレンジ

日本陸上競技連盟が主催する陸上中長距離のシリーズ大会で、北海道内5会場で開催され、国内外トップランナーが記録に挑戦します。

【ま行】 ●マルチスポーツ

特定競技に特化せず、複数のスポーツを経験することで、幅広い運動能力を育成し、将来のスポーツ活動の土台を作ります。

